

## 用語の説明

表に出てくる分かりづらい  
主な用語を説明します

### 【収入の関係】

- ▶ **地方交付税**…人口や環境などの違いで生まれる地方間の格差を調整するために国から配分されるお金です。国が徴収する所得税や法人税、消費税などがもとになっています
- ▶ **自主財源**…国や県に依存しないで市が独自に調達できるお金
- ▶ **依存財源**…国や県に依存するかたちで調達するお金

### 【支出の関係】

- ▶ **民生費**…福祉や子育てを支援するために使うお金
- ▶ **総務費**…企画調整事務、庁舎や財産の維持管理、戸籍管理、税金の徴収など市の運営全般に使うお金
- ▶ **公債費**…市の借金返済などに使うお金
- ▶ **災害復旧費**…災害によって被害を受けた施設や道路などを復旧するためのお金
- ▶ **土木費**…道路や公園などの整備や補修に使うお金
- ▶ **商工費**…商工業や観光を促進するために使うお金
- ▶ **教育費**…学校や生涯学習、スポーツなどを推進するために使うお金
- ▶ **農林水産業費**…農林水産業の振興などに使うお金
- ▶ **衛生費**…環境の保全や健康を促進するためのなどに使うお金
- ▶ **消防費**…消防や災害対策などのために使うお金
- ▶ **議会費**…議会活動に使うお金

## 一般会計歳出 246億 3,005万円

民生費	63億6,893万円 (25.9%)
総務費	36億3,009万円 (14.7%)
公債費	28億9,326万円 (11.8%)
災害復旧費	26億8,883万円 (10.9%)
土木費	26億1,603万円 (10.6%)
商工費	16億4,884万円 (6.7%)
教育費	15億6,301万円 (6.3%)
農林水産業費	10億8,561万円 (4.4%)
衛生費	10億 638万円 (4.1%)
消防費	8億6,370万円 (3.5%)
議会費	2億2,227万円 (0.9%)
その他	4,310万円 (0.2%)

## 一般会計歳入 270億 1,664万円

自主財源	37・2%	市税	42億5,052万円 (15.7%)
依存財源	62・8%	繰越金	37億4,814万円 (13.9%)
		繰入金	7億8,295万円 (2.9%)
		諸収入	7億4,518万円 (2.8%)
		その他	5億 479万円 (1.9%)
		地方交付税	71億4,895万円 (26.5%)
		国庫支出金	51億6,806万円 (19.1%)
		県支出金	19億2,687万円 (7.1%)
		市債	18億1,766万円 (6.7%)
		地方消費税交付金	6億4,198万円 (2.4%)
		地方譲与税	2億 909万円 (0.8%)
		その他	7,245万円 (0.2%)

# 久慈市の お財布事情 ～平成29年度決算～



## 特別会計

会計名	歳入額	歳出額
土地取得事業	9万円	9万円
国保（事業勘定）	48億1,635万円	48億7,284万円
国保（直診勘定）	1億6,491万円	1億6,491万円
後期高齢者医療	3億1,077万円	3億1,061万円
魚市場事業	1,347万円	1,347万円
漁業集落排水事業	2億3,849万円	2億3,082万円
公共下水道事業	11億1,339万円	10億8,608万円
合計	66億5,747万円	67億7,882万円

## 公営企業会計 水道事業会計

区分	収入額	支出額
収益的収支	8億2,869万円	8億7,586万円
資本的収支	10億4,236万円	12億2,177万円

**歳入の内訳**  
歳入と歳出について、もう少し詳しく見てみましょう。歳入の内訳で1番多いのは地方交付税、続いて国庫支出金。どちらも国から市に配分・補助される依存財源です。当市は財源の大半を国や県からのお金に頼っている状態です。その割合は62・8%となっています。これに対して、市税などの自主財源の割合は37・2%。この割合が高いほど市政運営の自主性と安定性が保たれていることになります。

**歳出の内訳**  
歳出の内訳で1番金額が高いのは民生費で63億6893万円、福祉や子育て支援などに使われました。2番目は総務費で、36億3009万円、施設の維持管理などに使われました。続いて、借金返済に使った公債費、台風10号などで被害を受けた施設や道路などの復旧に使った災害復旧費、道路や公園などの整備・補修に使った土木費の順となっています。

**久慈市の財政は大丈夫？**  
「久慈市の財政は大丈夫？」という市民の声をよく耳にします。結論から言うと「久慈市の財政は健全です」。後のページで説明しますが、市の財政状況を客観的に判断する、健全化判断比率はどの数値も国の基準内となっています。  
**厳しさを増す自治体財政**  
しかし、楽観的に考えてはいけません。日本の地方公共団体の大部分が抱える問題である人口減少・少子高齢化。久慈市も例外ではありません。人口が減ると、市の財源である市税などが減っていきます。また、平成14年ころから始まった国の改革により、国から配分されるお金である地方交付税も減少しています。さらに、高齢化や公共施設の老朽化により、使うお金は増加する傾向にあります。皆さんから納めていただいた税金がどのように使われているか、そして久慈市の財政がこれからもずっと健全でいられるためには、どうすればよいか一緒に考えましょう。

**市の会計の種類と決算額**  
市の会計は大きく分けると「一般会計」「特別会計」「公営企業会計」の3つに分かれます。  
一般会計は、福祉や教育、土木など市の基本的な仕事のための会計です。当市の平成29年度の一般会計決算は、歳入（収入）が270億1664万円、歳出（支出）が246億3005万円となり、歳入と歳出の差額は23億8659万円。ここから翌年度に使う財源6億8806万円を引いた16億9853万円が実質的な収支となります。  
特別会計は歳入・歳出を一般会計とは別に処理する会計で、国民健康保険事業や公共下水道事業などがあります。歳入の合計は66億5747万円、歳出の合計は67億7882万円となりました。  
公営企業会計に該当するのは水道事業会計。水道施設を維持管理するための収支的収支は、収入が8億2869万円、支出が8億7586万円でした。差額には内部留保資金を充当しました。